

義農大賞を軸に、 松前をどう盛り上げる？

義農作兵衛 (1688 ～ 1732)

松山藩筒井村(現松前町筒井)の農家に生まれる。幼いころから農業に励み、食べ物がなく餓死者が続出した享保の大飢饉(1732)でも休むことなく田を耕し続けたが、飢えに苦しみ倒れてしまう。

それでも後世のことを思い、麦種一粒食べることなく、自分の命と引き換えに麦種を残した。義農作兵衛とその精神は今も松前の人に受け継がれ、神社をはじめ太鼓やまんじゅうなど、さまざまな形で残されている。



です。審査員のお話をいただいたときに、どちらが目的なのかと素朴な疑問を持ちました。そもそも、自らの命と引き換えに麦種を残すという義農作兵衛の行為は、今の世の中では起こり得ないことです。その精神を、現代社会にどう引き継いでいくのか。例えば清掃活動や、SDGs(エス・ディー・ジーズ)のように循環型社会の実現に向けた活動など、利他的な活動と解釈できるものはいくつもあります。果たしてこれらをどこまで対象とするのか、という点も疑問でした。

たのが正直なところ。さらに、応募者はテレビに出て全国的にも有名な人からそうでない人まで、活動規模も内容もさまざまだったので、選考が非常に難しかったですね。

義農大賞の目的として、おそらく最終的には、「義農作兵衛が残した『義農精神』が息づく松前町では、他の町に比べて利他的な活動が多く行われている」ということを町の特色としてPRできることが理想なんだと思います。そのために、最初に申し上げた二つの視点、「全国に向けて義農作兵衛の功績を発信すること」と「町内で利他的な活動を増やすこと」は、切り分けて考えた方がいいのではないのでしょうか。

全国に向けて発信をするのであれば、例えば義農作兵衛の功績に対して今ならその行為をどう評価してどんな位置付けにするかということ、論文や感想文にまとめてもらう。それらを出してもらって、大賞を選ぶというのも一つです。義農精神は現代社会にどう翻訳されるのか、引き継がれているのかを一度議論する必要があるのかもしれないですね。



はやかわ 早川 かずし 氏 = 新立 =
義農作家。義農作兵衛の顕彰のため、講演会や楽曲作りなどに励む。「義農スピリット」著者。

おかもと 岡本 靖 町長

にしな ひろしげ 氏 = 西古泉 =
愛媛大学学長。農学博士で、学術の立場から政策を提言する「日本学術会議」の会員を務めるなど国内外で活躍中。

郷土の偉人 義農作兵衛を顕彰し、その知名度向上を目指して創設した「義農大賞」一。同大賞の審査委員を務めた仁科さんと早川さんをお招きし、座談会を行いました。義農大賞を軸とした町の知名度向上について、皆さんも一緒に考えていきましょう。

義農大賞創設の経緯は？

町長 観光資源の少ない松前町にとって、郷土の偉人「義農作兵衛」は宝物のような存在だと思っています。戦前は修身道徳教育を行うための教科書の教科書に掲載されるなど全国的な知名度があったにもかかわらず、現在は町内でも知らない人がいる。戦前にはならないにしても、義農作兵衛を再び全国の人々が知るような存在にしたいという想いがありました。

町長就任後、同じ想いを持つ町民の皆さんからいろんな提案を受ける中で、現代において義農精神を体現する取り組みをしている人を表彰することが、義農作兵衛の知名度を上げるのに最も効果的ではないかと考えました。また、義農精神が息づく町を掲げている松前町の責務として、町内外の皆さんに利他的な心の大切さを訴えていく必要があると思います、実施しようとした訳です。

今年度の6月から募集を開始し、当初は応募が少なく不安もありましたが、委託業者をはじめ多くの皆さんが周知活動に尽力してくださったおかげで、応募

町長 実は、地域内の活動を表彰する制度も考えています。

義農作兵衛の存在、松前町の存在を全国にアピールし、知名度を上げていく義農大賞と、その町内版として地域の中の利他的な活動を促すための地域功労賞、二つセットの義農大賞という位置付けです。まだ地域功労賞は選定作業には入っていませんが、表彰式では併せて表彰したいと考えています。

仁科 大変良いことですね。

町長 仁科学長が仰った、義農



総数は165件まで増えました。大賞受賞者は、来年度の4月に行う表彰式で公表予定です。

応募者からは、「活動資金の財源に困っており、今回の取り組みは非常に助かる」という声もいただきます。本事業を通して義農作兵衛を知ってくれた人も数多くいました。一回きりではなかなか効果は出ませんが、今後も継続していくことで、本来の目的を達成したいと考えています。

義農大賞の印象は？

仁科 義農大賞には、考えられる視点が二つあると思います。一つ目は、義農作兵衛の存在と功績を全国に向けて発信すること、二つ目は、町内で利他的な活動をする人を増やすこと

作兵衛を現代で見たときにどう評価するのかというような論文を募集するというのは、一つの面白い施策かもしれないですね。今後検討させていただきたいです。

早川 義農さんの顕彰といえば、大正から昭和にかけて、当時の町長らが発起人となって立ち上げた「義農会」という組織がありました。イベントがある度に三度立ち上げられたものの、地域に閉じた取り組みだったので、いかなれば線香花火。一方今回の義農大賞は

Point 義農大賞とは？

郷土の偉人「義農作兵衛」を顕彰するとともに、松前町の全国的知名度向上を目指し、令和3年度に創設した新規事業。他者への思いやりにあふれた、作兵衛翁の「義農精神」を体現する活動を継続して行っている個人・団体の功績を募集し、大賞を決定。受賞者には、副賞として活動助成金を贈呈する予定です。



義農大賞地域功労賞

義農大賞の町内限定版。今年度中に募集開始予定です。詳細は、決まり次第町ホームページなどでお知らせします。

総務課企画政策係 ☎ 985-4103

打ち上げ花火です。新しい顕彰方法として岡本町長が提案された、素晴らしいアイデアだと思います。全国発信の手段としては、非常に効果的ではないでしょうか。

義農精神を広めるという意味では、義農作兵衛を道徳の検定教科書に復活してほしい。命や穀物を尊ぶ大切さが詰まった義農精神は、仁科学長も仰ったようにSDGsとつながるところも多くあります。義農精神とはどういうものかということ議論する輪が広がり、将来的には全国の小学生たちに考えてもらえるようになるとうれしいですね。

町長 戦後の教科書に掲載されなくなったのは、やはり自分の命と引き換えに麦種を残したという点で、全体主義的な捉え



られ方をしていたからでしょうね。全体のために命をかけたことが戦争を連想させるために、排除されたのかなと思います。

早川 そうですね。しかし私は、義農作兵衛自身そんなに大それたことを考えていなかったのではないかと思っています。麦種は大切なものなので、それを次の世代にも引き継がなければならぬという一途な想いが結果的にいろんな人の胸を打って村を救った。そういう純粋な想いが大きな力になったというところが、義農精神の最もすごいところだとも思っています。

―義農大賞の今後は？

町長 今後義農大賞は隔年実施を検討している訳ですけれども、今回の審査を終えて、改善すべきと感じた点などはありませんでしたでしょうか。

仁科 功績調査だけで判断するのは難しかったです。皆さん書いていることが全然違うし、強くアピールする人とそうでない人がいるので悩みましたね。

町長 私はどれだけ身をささげているか、どれだけ私財を投げ打っているかの記述の有無が、一つの基準になるのではと思います。しかし文字にしていなくても実態は同じところがあるかもしれないので、やっぱり記述されたものだけで選んでもらうことに不安を覚えたというのが正直なところです。

仁科 「私財」といっても、お金と時間、二つの要素があるので、そこがちよつと迷ってしまうんですね。

早川 私が審査をして痛感したのは、全国にはこんなにも、世のため人のために活動されている人がいるんだということ。一方、応募者がほとんどNPO法人だったので、周知方法や掘り起こしの仕方を変える必要があるかもしれません。難しいとは思いますが、

仁科 それこそSDGsとの位置関係をはっきりさせておくということも一つですね。義農精神は自己犠牲ではなく、サステイナブル(持続可能)な精神であると。例えば、化学肥料や農

薬などを使わず、資源を循環させる循環型農業。町内の循環型農業で採れた作物をエミフルM A S A K IでPRし、「循環といえば、松前町では昔、農業を続けるためにこういう活動をした人がいます」と関連付ける。そういうストーリーがあると、インパクトが強いのかなと思います。

早川 SDGsと関連付け、さらに集客力のあるエミフルM A S A K IでPRするというのはとても効果的だと思います。

仁科 義農作兵衛を単体で前面に出すよりも、現代でいうとこういう活動をして次世代につなげたというストーリーにする、理解されやすくなるかもしれません。

早川 SDGsには、17の目標がありますが、1つ枠が余っていますよね(下図参照)。この18個目に地域独自の目標をつける面白くないでしょうか。

仁科 いいですね。地域SDGsとかにして、松前町独自の取り組みができると思います。

早川 私は義農作兵衛を悲劇の人として捉えてはしくありません。飢饉で死んでしまった暗い話ではなく、麦種になって、今もなおこの町に生きているというロマンチックな話として広がってほしいと思います。

町長 その話と通じるのが、義農大賞表彰式のアトラクション

として現在制作中の、義農作兵衛を題材にした新作能です。制作をお願いしている能楽師の先生によると、ラストは農業の神様になった義農作兵衛が、松前町の田園で童子(子ども)になっ

て遊んでいるというシナリオだそうです。

早川 それはすてきですね。義農作兵衛の話が、ハッピーエンドとして広がってくれたらうれしいです。

―義農神社の今後は？

町長 毎年4月23日に義農祭が行われる義農神社は、老朽化が進んで危険な状態です。しかし、政教分離の問題で行政が手を出せないことから誰も手入れができず、朽ち果てようとして

います。かつてのように民間の力で「義農」を立ち上げ、修繕費用が捻出できればいいのですが、それも難しいのが現状です。現在考えているのは、ご神体を、義農神社が建てられる前に祭っていた八幡神社に戻す(遷宮)こと。筒井地区の区長さんと八幡神社を管理している玉生神社の宮司さんに、この遷宮について検討をお願いしているところです。

遷宮ができれば、今ある建物は単なる建築物となりますので、行政の手で解体して、義農公園として整備できます。そう

なれば、義農作兵衛を含めた郷土の偉人を顕彰する資料館を造るかどうかが、管理にかかる維持費との兼ね合いはどうかなど、町民の皆さんのご意見を伺いながら、将来の課題として効果的な顕彰方法を考えていきたいと思っています。

早川 華やかでなくていいので、みんなで義農作兵衛について語り合える、憩いの空間になってほしいです。

町長 仁科学長、早川さん、本日は、ありがとうございました。



◀岡本町長と宇高德成さん。新作能制作に当たって、義農作兵衛の能面も作られた



Point 義農大賞表彰式を開催します

- ▶日程 令和4年4月23日④
 - ▶場所 文化センター広域学習ホール
 - ▶内容 義農大賞および地域功労賞の表彰式、義農大賞審査委員会審査委員長のアグネス・チャンさんによる基調講演、義農作兵衛を題材にした新作能「義農」披露など
- ※ 詳細は、決まり次第広報まさきや町ホームページなどでお知らせします。

☎総務課企画政策係 ☎985-4103

News 新作能「義農」制作発表記者会見

新作能「義農」の制作発表記者会見は12月14日、役場で行われました。

義農作兵衛を題材とするこの新作能は、義農大賞表彰式のアトラクションとして上演するために制作されたもの。制作者の金剛流能楽師 宇高德成さんは、「義農作兵衛が題材の和歌や俳句を、能のうたい文句に入れた点がこだわり。能を通じて皆さんに義農精神を伝えられたら」と意気込んでいました。

新作能「義農」は、義農大賞表彰式で初披露する予定です。岡本町長は、「松前町での上演に限らず、ぜひ、さまざまな機会で『義農』を演じていただきたい」と期待を込めました。



Point SDGs (Sustainable Development Goals) とは？

持続可能な開発目標のこと。国連加盟国 193 カ国が 2030 年までに達成を目指す国際目標で、「誰一人取り残さない」という理念のもと、17 の目標(左図参照)と 169 のターゲットが設定されています。